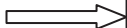


全体活動に参加しやすくするための支援

衝動性や多動性がある等社会性の弱さがあると、思いついたことを衝動的に話してしまう、大きな声で話すなど全体を乱す行動をすることがあります。そこでルールを視覚化しクラスルールとしてみんなで確認すると対象児ばかりが叱られることが少なくなります。

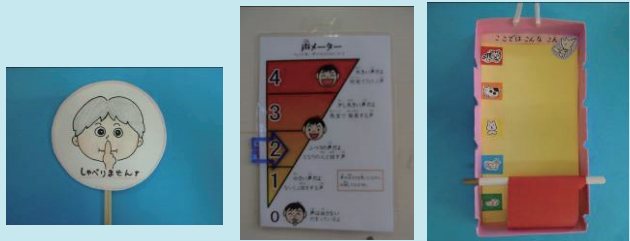
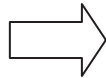
〔児童の姿〕

クラス全体で話を聞く時、思い浮かんだことをすぐに口に出してしまい、継続して話を聞くことが難しい。



〔具体的支援〕

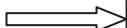
- ・『先生が話をしている時はしゃべりません』をクラスのルールとして全体で確認する。
- ・言葉に受け答えせず、サインや簡潔に言葉で伝えたりカードで静かにするように促す。
- ・声の大きさレベルを教える場の状況に合った声の大きさで話す練習をする。 ⑥

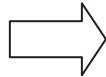
〔具体的な状況〕

・定着するまでは保育士の話の途中で口を出す、少しずつ定着してくると、カードを見ると自分から気づいて黙るようになる。

場の状況がわからず大声でしゃべる。

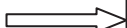


- ・話に集中できるよう視覚刺激の少ない方を向いて座る場所を設定する。
- ・イスを使って座り、他児との距離をとって気が散らないようにする。(イスが使えない場合はマットに個々のマークを貼る等の工夫をする) ⑤
- ・話の内容に興味をもち集中できるよう、絵や図を描きながら説明し、理解できているかどうか確認しながら進める。



・壁面の情報に気が散りにくくなり、保育士に注目しやすくなった。また、イスを使って一定の距離をとることで他児に対し気になることが少なくなりちよっかいをかけることが減る。
・絵や図を使って説明することで話に集中し理解しやすくなる。

集まって話を聞く時に、周りにいる友だちにちよっかいをかけたり、周りに気が散って動き出してしまふ。

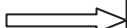


- ・行為には反応せず、「下ります」と端的に伝える。
- ・高い所に上りたいと言う欲求を遊びで満たせるように遊びを工夫する。
- ・上ってはいけない所は視覚でもわかるように表示したり、危険のないようにすぐには上れないような環境設定をする。



・過剰に反応しないで端的に言葉をかけたので様子を見て下りてきた。

おもちゃ棚や机、テラスの支柱に上ったり、すべり台の上立つ。



衝動的な行動や注目行動には過剰に反応しないで冷静に対応します。



POINT

内言語(頭の中で考えていること)が外に出る特徴がある時は、クラス全体で沈黙し頭の中で考える練習をするのもよいです。

例えば「先生が言った言葉を心の中で言う」「声のボリュームを0にして10数える」など。



POINT

気が散らずに座って話を聞いている時は、アイコンタクトで認めていくとよいです。常に目の中に入れておくことで、「あなたを見ている」と言うサインを送ります。



POINT